

あしよろ・ハードサポート通信

連休は晴天に恵まれ、圃場作業や牧柵修理が順調に進みましたが、その後の雨や寒気で牧草の伸びが物足りない地域もあるようです。これからの天候に期待したいですね。

◆ 乳牛の飲み水



水は、生き物にとって不可欠なものです。毎日牛乳を生産する泌乳牛の1日の飲水量は100ℓ前後、これから迎える暑熱期には200ℓ前後まで増えると言われています。

そうすると、泌乳牛50頭飼養の酪農場では1日に5,000～10,000ℓの水が必要ということになります。それだけの水を十分に供給できているでしょうか？

◆ 水量は充分？



隣に強い牛がいると、弱い牛は飲むのをあきらめる

乳牛は、搾乳後や採食後、一斉に水を飲みたがります。飲みたいときに飲めない場合、水を飲むのをあきらめる牛が出てきます。飲水量が減ると、エサの採食量も落ちてしまいます。

繋ぎ牛舎では、ウォーターカップへの水の配管径を100前後へと太くしたり、給水タンクの容量を上げることで、現状よりも充実した水量を確保できるようになります。

フリーストールやフリーバーンでは、10頭以上の群であれば、水槽は2ヶ所以上に必要です。「〇頭に対して水槽が△個あれば良い」のではなく、水槽サイズと群の頭数規模が見合っているかを考えます。泌乳牛の場合、係数は「1頭当たり9cm」です。



水槽と、水が飛び散る上の部分まできれいに掃除されている

例えば、長さ200cm、幅50cmの水槽で、写真のように片側が壁の場合、乳牛がアクセスできる長さは $200+50+50$ で300cmです。

この300cmを係数「1頭当たり9cm」で割ると、 $300 \div 9 = 33.3$ で、この水槽の許容頭数は33頭、と算出できます。



ディッピングのカラ容器を加工して水槽を追加

水槽サイズが足りない場合は、サイズの大きなものへ更新したり、補足的に水槽を追加したりすることでのカバーを考えます。

◆ 「飲みたい」水？

水がきれいかどうかは、とても重要です。家畜は人間よりタフかもしれませんが、きれいな水を飲みたい欲求は同じです。不衛生な水は飲水量を減らすだけではなく、病原菌を体内へ取り込んでしまうリスクも高めてしまいます。



エサが沈み、ぬめりや藻がある水槽

牛はエサやヨダレを付けたまま水槽に口を付けるので、水はどうしても汚れます。

そのため、日常の作業の中に、水槽掃除を組み入れる必要があります。ウォーターカップであれば、例えば1日10個ずつ、だとか、フリーストールなら1群ずつ順番に掃除する、など、ちょこちょこことできる範囲で始めます。

慣れてくると1日15分程度で片付く作業です。また、新設・増設するときには、掃除がしやすい水槽を選ぶことも、毎日の作業を思うととても重要です。



特に夏場は、水槽を毎日掃除できると理想的

毎日の15分で、飲水量が増え、採食量も増え、健康度が上がり、もしも乳量が1kg増えたなら…？ コストをかけずにできる大きな「改善」ではないでしょうか。

これからの暑熱時期は、飲水量が増えます。暑熱ストレスは、乳牛の体感温度を下げるのが最優先ですが、水をしっかりと飲める環境づくりもとても重要です。

乳牛の飲み水。夏に向けて、ひと手間かけてみませんか？ (久富聡子)

・ 営農部佐藤さんとハードサポート久富での搾乳勉強会を6月5日に開催します。基本的な搾乳手順のおさらいに加えて、色々な酪農場での搾乳の様子や、搾乳のやり方（手順は？作業人数は？搾乳時間は？道具は？…）の紹介を考えています。搾乳に関わっている女性陣や従業員さんも大歓迎です。どうぞご参加ください。